



10月号

令和2年9月25日

横浜市立 星川 小学校

校長 小西 俊光

TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



コロナ禍の中で改めて考えさせられたこと

学校長 小西 俊光

今年度は10月9日が前期終業式、10月12日が後期始業式となります。今年度のスタートが6月1日だったこともあり、あっという間に前期終業の月になったように感じます。毎日の検温、マスクをした中での朝の会、ソーシャルディスタンスをとっての体育の授業、全員が前を向いての給食の時間、…とこれまでにない日々が今も続いています。そうした中、明るくのびのび過ごす星の子たちの姿を見て、私たち職員もたくさんの元気もらっています。

さて、コロナ禍が続く中、「これまで毎年行われてきたお祭りが中止になった」「大学ではオンラインによる授業が続いて、大学生は一度も大学に行っていない」というニュースが流れています。これまで当たり前に行ってきたことができなくなることは私たちにとって大きなストレスとなっています。毎日元気に登校する子どもたちにも様々な心配やストレスがあると思っています。



学校でも新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、今年度の学校行事等の在り方について見直しをしました。感染リスクがある中でもこの行事を実施すべきなのか、行事を実施する上でどのようにしたら感染リスクを減らせるのか、行事を実施するための準備の時間があるのか…等、検討を重ねました。どの行事もこれまで大切にしてきたものばかりなので、政府が「感染拡大防止」と「経済活動の再開」の両立で悩んだのと同じように、たいへん悩みました。しかし、各行事が子どもを育てていく上でどのような意義があるのかを改めて考える機会にもなりました。また、子どもたちにも各行事の目標がしっかり理解できるように指導すること、子どもが行事の目標を意識して取り組み、その振り返りを次の行事を取り組む際にも生かしていけるようにすることが大切であることを改めて確認することができました。

このように、コロナ禍は、私たちにストレスを与えるだけでの負の遺産だけではなく、これまで当たり前と思っていたことを本当に当たり前でよいのかを自分事として考える、よい機会を与えてくれたように思います。また、これまで行われてきたことが実施されなくなって、改めてそのことにどのような意義やよさがあったのかを実感する機会にもなったのではないのでしょうか。

コロナ禍が収束するまでにまだ時間がかかることと思います。この時間をストレスの時間とするのではなく、これまで当たり前のように行ってきたことを見直したり、そのよさを改めて実感したりしながら、これから10年20年先の未来の生活の仕方について考え試していく時間にしていきたいものです。

着任者紹介

9月1日に大浦諒子先生が着任しました。大浦先生には、3年生の子どもたちの学習や生活の支援をしていただいています。